

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.147

訪問購入(押し買い)トラブルにご注意!

【事例】

「不要品を買い取る」と電話があり家に来てもらった、強引に貴金属を買い取られた一売った指輪の買い戻しを申し出ると、「別業者に渡した」と言われた一

このようなトラブルを防ぐために特定商取引に関する法律で「消費者保護のルール」と「事業者が守るルール」が定められています。

- ①いきなり家に来た購入業者には対応しない
⇒訪問購入ではいきなり訪問して勧誘することは禁止されています。
- ②事前に買い取りを承諾した物品以外売らない
⇒消費者が事前買い取りを承諾した物品以外の勧誘は禁止されています。承諾した物品を売却したときは、購入価格やクーリング・オフ等について記載された書面交付を求めましょう。
- ③契約後8日間は物品を引き渡さない
⇒クーリング・オフ期間中(法律で定められた書面交付から8日間以内)は物品の引き渡しを拒むことができ、トラブルを防ぐ有効な方法となります。

不安な時は一人で対応しないで、消費生活センターにご相談ください。

おもてなしコラム 20

西脇市では、「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。豊饒の地で生産された地域食材や地場産業などの魅力に認識を深め、またみんなが郷土に誇りと愛着を持って来訪者をもてなすことで、本市のさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)



黒田庄和牛で西脇を盛り上げる

黒田庄和牛のふるさとで商いを始めて56年。たくさんの方に黒田庄和牛を手軽にお召し上がりいただけるお弁当を届けたいという思いから「黒田庄和牛牛めし」を発売しました。この牛めしは「地域らしさ」と「創意工夫」が施された逸品として、五つ星ひょうごにも認定されています。

また毎年年末には、百貨店で地元農家が育てた野菜と牛肉を使った「おせちと牛しゃぶセット」を産地直送便で販売しており、黒田庄和牛の名前を広めるお手伝いできればと日々精進しています。

昨年には「西脇ローストビーフ」の誕生に関わり、新ご当地グルメの開発にも取り組みました。地域食材を使った新しいご当地グルメで、西脇市をもっと盛り上げたいと思います。

けんしん亭 女将 森脇小百合



食品加工場の竣工式(11月18日)

「頑張る人」を支援して躍動感あふれるまちに!
比延地区のまちづくり団体「ええまち比也野里」が運営する食品加工場が竣工しました。この施設は、国の交付金で空き店舗を整備・改修したもので、「農業の6次産業化」の拠点となります。地元産のキクイモ、金ゴマ、タケノコ、トマトなどを活用した特産品加工・新商品開発や、他団体とも連携した販路開拓にも当たられます。

さらなるコミュニティビジネスの拡大、地域活性化につながっていくと大いに期待しています。また、熱心な活動に敬意を表します。
* * *
11月13日、市長としての任期2期目がスタートしました。私は頑張る人が輝くことのできる西脇市を目指していきます。まちづくりの原動力は「人」です。人が輝くことでまちも輝き、まちに躍動感が生まれてくるものと思います。世代や性別を問わず、積極的・意欲的にチャレンジを続ける方が活躍できる環境づくりを進めることで、まちの活力向上を図っていきます。このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をもっと創っていきましょう。



キクイモ、金ゴマなどで作る「万能だれ比也野」

市長からの手紙

西脇を元気に!!

47

西脇市長 片山象二



▲子どもたちが使う「ブックポケット」を制作中(日野小)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

地域の皆さんの力を学校運営に

—地域学校協働本部事業—

教育委員会では「学校・家庭・地域」が一体となって子どもを育て、学校教育の一層の充実を図ることを目的とする「地域学校協働本部事業」を実施しています。

地域学校協働本部事業は、平成20年度から始まりました。現在までに124名の方が「学校支援ボランティア」に登録され、学校の授業や活動の中で子どもたちの学びを支援していただいています。今回はブックポケット制作ボランティアの様子をご紹介します。

ボランティアお手製の「ブックポケット」

日野小学校では空き時間に読書に親しみ、読書の幅を広げようと「ブックポケット」の制作を考案。校区内の織物業者から播州織の生地を提供いただき、地元の14名の「学校支援ボランティア」の方に制作に携わっていただきました。「ブックポケット」は椅子の背もたれにかぶせられるような本を収めておくことができる袋で、子どもたちはいつでも本を読むことができます。制作作業では打ち合わせで出たさまざまなアイデアを取

り入れ、子どもたちの椅子の大きさに合わせて何度も試作。夏休みまでに全校児童と予備を合わせた228枚が仕上がりました。子どもたちからは「ありがとうございます」と嬉しむ声が聞かれました。またボランティアの方は「本を好きな子が一人でも増えますようにと念じながら、楽しく作業させてもらいました」と話され、地域の皆さんによる温かな支援活動の輪が広がっています。

教育委員会では子どもたちの学びや学びの環境づくりに支援いただける「学校支援ボランティア」を随時募集しています。ボランティアの皆さんの思いと技術が子どもたちの学習を支えています。内容・登録などは左記へお問い合わせください。
▼問合せ 生涯学習課(☎225996)

心のスケッチ

105

人権教育室コラム

じんけん教室に参加したある中学生の気づき

今年度も体験活動を通して人権感覚を磨く学びの事業「にしわきジュニアじんけん教室」を実施しています。人権教育室が計画している年間25の活動に、子どもや大学生、地域の方々も参加されています。

参加者は毎回活動を終えた後にそれぞれの学びについて感想文を書きます。その中で特別養護老人ホームの方々の交流会に参加したある中学生の気づきが心に留まりました。

「私は今までにない体験をしました。大勢の方の前に立ち、マイクを持って全体進行をしたこと、高齢者の方たちと話をしながら敬老会の準備をしたことなど、たくさんのことに挑戦しました。その中で驚いたことがあります。施設の方の9割が椅子を利用されているということ。一緒にレクリエーションをしているときに椅子の補助をしていると、小さな段差でも椅子の方にとってはとても不便だと知りました。便利はずの自動ドアは少しでも入

り遅れると挟まれてしまい、凶器になることも分かりました。これまでと見方が変わりました。そのことを知った今の私だから、できることがあると思います。」
この中学生はじんけん教室での体験を通して、知ってはいても身近に感じられなかった「高齢者の人権」や「介護する人の気持ち」を自分自身に引き寄せ、向き合い、つながり意識したのでしよう。これまではどこか「他人事」だった高齢者の生き方や介護する人の立場を「自分事」として捉え、これから関わっていくたいという思いが伝わってきました。

さまざまな経験をする中で、自分から積極的に周りの人・こと・ものと関わり、さらにその関わりを自ら深める力は、互いの人権を認め合い大切にできる社会を創っていくために必要な力となります。その力を、西脇市の子もたちが主体的に身に付けようとするたくましい姿に接することができ、大変うれしく思いました。(人権教育室)